

平成 30 年 6 月 29 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03161

研究課題名(和文) ファシズム期の古代理解に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Research on Understandings of Antiquity During the Fascist Era

研究代表者

平藤 喜久子(Hirafuji, Kikuko)

國學院大學・研究開発推進機構・教授

研究者番号：50384003

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「ファシズム」をその時代の特徴を表わす現象の一つととらえ、その時期に特有の古代理解、神話理解を比較的に考察する研究を行った。主に日本、ドイツ、イタリア、ルーマニアといった直接ファシズムを経験した地域を中心に、その時期の宗教者や研究者、思想家を対象とし、関連する史蹟やモニュメントなども調査し、ファシズムが想定以上にグローバルな現象であったことを確認した。本研究の成果は調査研究に参加した研究者ごとの視点からまとめられ、論文集として刊行される予定である。

研究成果の概要(英文)：This research project takes up fascism as a phenomenon that expresses the distinctive characteristics of its era and explores from a comparative perspective the understandings of antiquity and mythology during that era. The project focused on religionists, researchers, and intellectuals during these years primarily in those countries that had direct experience with fascism: Japan, Germany, Italy, and Romania. The research also included surveys of relevant historic sites and monuments. The project's findings revealed that fascism was even more of a global phenomenon than had been supposed. Planning is now underway to publish the results of our studies as a collection of articles that will bring together the perspectives of all the researchers who participated in the project.

研究分野：宗教学、神話学

キーワード：ファシズム 古代 神話 宗教史

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の研究代表者は、この研究課題の採択以前から、研究分担者、連携研究者とともにファシズム期と宗教文化に関する共同研究に取り組んできた。その中でファシズム期の国内外の日本神話研究について問題意識を深め、そのテーマを広くファシズム期の古代理解の問題の一部として総合的研究のなかで把握する必要があると考えられるようになった。またその研究では地域の比較だけではなく、プレ・ファシズム期、さらには現代の古代理解との比較という時間軸での比較研究が欠かせないとし、本研究に着手することとした。

### 2. 研究の目的

客観性と実証性を最大限に重んずる学問研究も、人間の営みである限り、時代思潮と無関係には営まれ得なかった。わけでも神話学がそうであった。神話には「民族的心性」がたたみ込まれていると信じられたからである。本研究はそうした典型的事例をファシズム期の神話学を含む古代宗教研究に求め、学問研究と時代思潮との関係を実証的に探究することを目的とする。具体的には1) ファシズム経験国における古代宗教、神話研究の特質、2) プレ・ファシズム期の宗教学、神話学、3) 非ファシズム地域の古代理解の特質、4) ファシズム期の研究と現代の宗教学、神話学との関わり、などの点について明らかにし、これらを総合的に比較研究することで、時代や国際関係が古代理解とどう相互的な関係にあったかを解明することを目指した。

### 3. 研究の方法

研究分担者、連携研究者と相談し、それぞれの研究課題、手順を議論し、その上で次の方法を取ることにした。

(1) 各研究者による文献調査、フィールド調査による各研究の深化。

(2) 年に複数回の研究会を持ち、研究状況を報告し、相互に討議する。

(3) 国際研究集会を開催し、国内外の研究者と情報交換し、国際的研究発信を行う。

(4) (1)～(3)の研究による成果を総合的に比較研究し、ファシズム期の古代理解についての研究をとりまとめる。

### 4. 研究成果

#### (1) 各研究の深化

本研究では、日本、ドイツ、イタリア、ルーマニアを中心としてファシズム期の古代理解に関する研究を深化させた。

日本については、研究代表者の平藤喜久子がファシズム期の日本神話研究について、ドイツやイタリアの神話研究との接続の観点から研究を進めた。研究協力者として、国際的にきわめて権威ある雑誌『モニュメンタ・ニッポニカ』の編集長を務めた上智大学名誉

教授のケイト・ナカイ氏に加わっていただき、ドイツ、オーストリアに関してはウィーン国立アカデミーのベルンハルト・シャイド氏、イタリアについて京都外国語大学のシルヴィオ・ヴィータ氏の協力を得て、ファシズム期に日本神話、神道についての研究が想定以上に両国で活発であったことが判明した。また、絵画やモニュメントなどを通じ、いかにファシズム期に古代が可視化されたのかも検討した。研究協力者に鈴木正崇・慶應義塾大学名誉教授を迎え、ファシズム期日本の宗教民族学についても問題意識を深めた。

ドイツについては、研究分担者の月本昭男・上智大学教授、深澤英隆・一橋大学教授がドイツにおける古代アッシリア研究、およびドイツ民族主義宗教運動に関する研究を行い、古代的なものについての研究、および造形表現について知見を得た。

イタリアに関しては、研究分担者の江川純一・東京大学助教がファシズム期イタリアの最高神研究の調査をオーストリア国立図書館などで行い、ペッタツォーニらの古代宗教研究についての調査研究を行った。

ルーマニアについては、研究分担者の新免光比呂・国立民族学博物館准教授が、ルーマニアにおける古代ローマ軍団撤退から13世紀の封建国家までの歴史資料の不在に注目し、そのこととファシズム期知識人の古代観との関わりについて分析を行った。

#### (2) 研究会、国際研究集会の成果

3年間の研究機関において、毎年研究代表者、分担者の研究の進捗状況を確認し、コメントをシェアする研究会を行うとともに、研究協力者の知見を得ることを目的とした研究会、国際研究集会を実施した。

2017年1月には、シルヴィオ・ヴィータ京都外国語大学教授に、「昭和前期イタリア人宣教師の『古事記』 マリオ・マレガ(1902-1978)のイタリア語訳とその背景」と題する発表をしていただいた。カトリックの日本研究、ファシズム期のイタリア人など複数の要因をどう考えるのか、実りある討議が行われた。研究会には来日中のフランス国立高等実習院のアラン・ロシェ教授、ニューヨーク州立大学のストリッポリ・ロベルタ准教授も加わった。ロシェ教授は日本神話、ロベルタ准教授は中世日本文学の専門家であり、多様な視点からマレガの理解について検討することができた。

2017年4月には「ファシズム期の宗教研究に関する国際研究集会」の事前勉強会としてフランス国立高等社会学研究院教授であるアルバン・ベンサ氏に"Guerre, colonie et anthropologie : Histoire et geste d'une guerre kanak du XXe siècle - Nouvelle-Calédonie 1917."というタイトルで、同じファシズム期にフランスではどのようにアジア・太平洋地域の研究が行われていたのかについて専門的知識を共有していただいた。5月の国際研究集会では、にオース

トリア国立アカデミーのベルンハルト・シャイド先生に "Shintoism and Zen in Nazi-period Japanese Studies: Wilhelm Gundert and his environment" と題する発表をしていただき、ドイツの神道、神話研究の歴史を踏まえた上でのファシズム期ドイツ人の研究について論じていただいた。

これらファシズム期の日本研究を対象とする外国人研究者たちとの研究会は、研究分担者、連携研究者の研究を深めることになったのみならず、国際的な研究ネットワークの構築という成果ももたらした。本研究終了後も研究交流は続く見込みであり、国際的な研究のさらなる進展が見込まれる。

### (3) 合同調査による成果

本研究では、ファシズム期の古代理解、また宗教研究に関わる土地についての合同調査を行った。調査に当たっては関連文献を事前に指定し、当該の土地、または事象についての専門家を招聘し、現地での研究会を開くなどして、参加者の研究の進展に努めた。

2015年には、島根県津和野町、山口県萩市、山口市を訪れた。本調査の問題意識の背景には、津和野の国学が近代日本のファシズムの揺籃の場所ではないかということがあった。長州藩もまた同様である。その地では浦上四番崩れと呼ばれる日本におけるキリスト教の最後の大弾圧が行われた。ファシズム期の古代理解を考える上で、異文化の宗教をどのようなまなざしでみたのかはきわめて重要な視点であるため、津和野、長州のキリシタン弾圧関係の遺跡、およびファシズム期の水脈となっているような史蹟を調査した。調査に当たっては津和野のキリシタン弾圧の研究をしている三輪地塩氏、長崎のカクレキリシタン研究の第一人者である宮崎賢太郎氏に専門家として加わっていただいた。調査では、ナショナリズムと外部宗教としてのキリスト教のせめぎ合いについて論じあった。

2016年は、日本のファシズム期を代表する思想家、軍事思想家として知られる大川周明、石原莞爾に注目した。二人は同じ山形県庄内地方の出身である。ファシズム期の宗教についての研究を進めていく上で、彼らの思想、研究に郷土文化がどう関わっていたのかという視点は欠かせないため、大川周明研究で知られる臼杵陽・日本女子大学教授を研究協力者として迎え、調査を実施した。とくに大川周明生家では、手紙などの資料を閲覧させていただき、ファシズム期の宗教関係者の交流について貴重な情報を得ることができた。石原莞爾については、石原莞爾顕彰会の方に話を伺い、晩年の共同生活の様子、日蓮信仰のことなどの情報を得た。その他資料館などで石原莞爾史料を閲覧したほか、日本主義で知られる高山樗牛など近代のナショナリズムに関わる出身者の史料を調査し、地域文化とファシズムについて相互に討議を行った。

2017年は、それまでの研究会や調査における討議で、ファシズム期の古代理解の一つのキーワードとして「戦う青年」への関心があると考えられた。加えて2015年に刊行された Reto Hofmann の *The Fascist Effect-Japan and Italy, 1915-1952* のなかで、ムッソリーニが日本の会津の白虎隊にただならぬ関心を寄せていたことが指摘されていたことから、会津若松市の白虎隊、二本松市の二本松少年隊の顕彰碑の調査を行った。この調査により、ファシズム期に建てられたモニュメントの重要性も認識された。ファシズム期の古代意識とモニュメントに関しては、Kenneth J. Ruoff により、*Imperial Japan at Its Zenith: The Wartime Celebration of the Empire's 2600th Anniversary*. Ithaca, New York: Cornell University Press が2014年に出版されており、この著作の内容を検討すべく、取り上げられている紀元2600年紀年の神武天皇関連モニュメントを2018年の3月に宮崎県、鹿児島県において調査した。この調査から、あらためて今後ファシズム期の古代的モニュメント、さらには古代表象の研究の必要があることが認識された。

### (4) 研究発信

各研究者が、それぞれ所属する国内外の学会において研究発表を行った。平藤、松村一男は国際比較神話学会(2017年)、平藤、深澤は国際宗教学宗教史世界会議(2015年)で発表をした。全体としては2017年の日本宗教学会第76回学術大会において「聖と古代のファシズム」と題するパネルディスカッションを行い、平藤、鈴木、深澤、新免が発表、月本がコメントをした。

なお、研究期間中の各研究をまとめた論文集の刊行を計画している。平藤喜久子編『聖と古代のファシズム』(仮)北海道大学出版会、2018年刊行予定である。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

平藤喜久子「"史"から"話"へ 日本神話学の夜明け」『アジア遊学』217巻、2018年、43-56頁、査読なし。

月本昭男「友と隣人、友情と隣人愛」『福音と世界』2月号、2017年、50-55頁、査読なし。

月本昭男「旧約聖書における社会的弱者を巡って 寡婦と孤児と寄留者」『福音と世界』11月号、2016年、47-53頁、査読なし。

平藤喜久子「宗像三女神と住吉三神 比較神話学的観点から」『悠久』144巻、2016年、37-48頁、査読なし。

平藤喜久子「神と出会う・神を描く ポップカルチャーにみる伝統と現代」『國學院

雑誌』第 116 巻第 11 号、2015 年 142-154 頁、  
査読有。

〔学会発表〕(計 13 件)

\_\_\_ Kikuko Hirafuji, "The beginning of comparative study between Japanese myth and Korean myth: in the case of Mishina Shoei", International Workshop, Perceptions of the Cultural Other Japanese Images of Korea and Korean Images of Japan (招待講演), Tuebingen University, 2018. (国際学会)

\_\_\_ Kikuko Hirafuji, "Myth and History: Artists' Encounter with Mythology in Wartime Japan", International Association for Comparative Mythology (国際学会), 2017.

\_\_\_ 平藤喜久子「歴史と神話の間で 安田鞞彦の神話絵画」日本宗教学会第 76 回学術大会、2017 年

\_\_\_ 新免光比呂「古代の欠落と民族聖化への道 ファシズム期ルーマニア知識人のとらわれ」日本宗教学会第 76 回学術大会、2017 年

\_\_\_ 深澤英隆「表象しえぬ古代の表象 - ドイツ・プレファシズム期の視覚文化 -」日本宗教学会第 76 回学術大会、2017 年。

\_\_\_ Kikuko Hirafuji, "Girls Meet Deities: Deities in Japanese Pop Culture", International Sociological Association, University of Vienna (国際学会), 2016.

\_\_\_ 江川純一「宗教史学における差異と反復 ペッタッツォーニとエリアーデ」日本宗教学会第 75 回学術大会、2016 年。

\_\_\_ 新免光比呂「西欧化のジレンマとマネーレ ゆらぐルーマニア人のアイデンティティ」International Forum "Pop-folk genres in East Europe and East Asia: Parallel Phenomena on Both Sides of Eurasia"、2016 年

\_\_\_ Kikuko Hirafuji, "Translation Issues in Kojiki: God, Deity or Spirit?" The International Association for Comparative Mythology (国際学会), 2015.

\_\_\_ Kikuko Hirafuji, "Myth education from a global perspective", XXIth International Association for the History of Religion World Congress (国際学会), 2015.

\_\_\_ Hidetaka Fukasawa, "Georg Simmel and the Paradoxes of the "Intellektuellenreligion"" XXIth International Association for the History of Religion World Congress (国際学会), 2015.

\_\_\_ 松村一男「ファシズム期の古代宗教研究」日本宗教学会第 74 回学術大会、2015 年

\_\_\_ 江川純一「ペッタッツォーニの最高存在論 日本宗教研究を中心に」(パネル「西と東における神 靈魂論と最高存在論」)日本宗教学会第 74 回学術大会、2015 年

〔図書〕(計 5 件)

\_\_\_ Michael Wachutka, Monika Schripf, Kikuko Hirafuji 他 Religion, Politik und Ideologie, Indicium, 2018, 405 (平藤執筆分 322-337)。

\_\_\_ 月本昭男(他、平藤喜久子、松村一男)『宗教の誕生』山川出版社、2017 年、328 頁。

\_\_\_ 江川純一、久保田浩編『呪術』の呪縛【下】』リトン、2017 年、414 頁。

\_\_\_ 平藤喜久子、松村一男『神のかたち図鑑』白水社、2016 年、484 頁。

\_\_\_ 月本昭男『古代オリエント研究の地平 小川英雄先生傘寿記念献呈論文集』リトン、2016 年、289 頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他論文〕

\_\_\_ 平藤喜久子「海外における日本神話研究 ファシズム期の視点から」國學院大學研究開発推進センター編『昭和前期の神道と社会』弘文堂、2016 年、511-529 頁。

\_\_\_ 平藤喜久子「近代植民地主義と『古事記』研究の間」『古代史研究の最前線 古事記』洋泉社、2015 年、220-235 頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

\_\_\_ 平藤喜久子 (HIRAFUJI, Kikuko)  
國學院大學・研究開発推進機構・教授  
研究者番号：50384003

(2) 研究分担者

\_\_\_ 月本昭男 (TSUKIMOTO, Akio)  
上智大学・神学部・教授  
研究者番号：10147928

深澤 英隆 (FUKASAWA Hidetaka)  
一橋大学・大学院社会学研究科・教授  
研究者番号：30208912

江川 純一 (EGAWA Junichi)  
東京大学・大学院人文社会系研究科 (文学部)・助教  
研究者番号：40636693

松村 一男 (MATSUMURA Kazuo)  
和光大学・表現学部・教授  
研究者番号：70183952

新免 光比呂 (SHIMMEN Mitsuhiro)  
国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・准教授  
研究者番号：60260056

(3) 連携研究者

山中 弘 (YAMANAKA Hiroshi)  
筑波大学・人文社会科学研究科・教授  
研究者番号：40201842

久保田 浩 (KUBOTA Hiroshi)  
明治学院大学・国際学部・教授  
研究者番号：60434205

(4) 研究協力者

鈴木正崇 (SUZUKI Masataka)  
慶應義塾大学・名誉教授

NAKAI Kate Wildman  
上智大学・名誉教授